令和４年度　小牧市まち・ひと・しごと創生推進懇談会　議事要旨

日　　時	令和４年 11 月４日（金）　13 時 30 分～15 時 30 分
場　　所	小牧市役所本庁舎 ６階 601 会議室
出 席 者	山下 史守朗　（小牧市長） **【委員】（名簿順）** 内藤　誠　名古屋鉄道㈱ 名和 千博　小牧商工会議所 松浦 秀生　東春信用金庫 水野 有香　愛知大学 伊藤 博美　椙山女学園大学【座長】 荒谷 善紀　CCNet(株) 田中 秀治　小牧市社会福祉協議会 坪井 俊和　大城児童館 **【地方創生アドバイザー】** 西村　健　日本公共利益研究所 **【事務局】** 伊木 利彦　副市長 小川 真治　市長公室 秘書政策課長 梅村 昌行　市長公室 秘書政策課 市政戦略係長 赤堀 真耶　市長公室 秘書政策課 市政戦略係 小川 優子　市長公室 秘書政策課 市政戦略係 **【小牧市まち・ひと・しごと創生推進委員】** 笹原 浩史　市長公室長 落合 健一　市長公室次長 舟橋 知生　総務部次長 三品 克二　地域活性化営業部次長 駒瀬 勝利　市民生活部次長 江口 幸全　健康生きがい支え合い推進部次長 川尻 卓哉　こども未来部次長 堀場　武　都市政策部次長 伊藤 京子　教育委員会事務局次長
傍 聴 者	０名
配付資料	資料１　委員名簿・配席表 資料２　第２期小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和４年度指標管理シート 資料３　令和 3 年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の効果検証について 参考資料１　小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略　事業一覧表（令和３年度）

主な内容

１．開会
（１）あいさつ
２．議題
（１）第２期小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について

・事務局より、資料２に基づき、説明。
〇質疑・意見の発言内容
【伊藤座長】
議題の 1、第 2 期小牧市まちひとしごと創生総合戦略の評価検証について御説明いただきました。
議論が飛ばないように、４つある基本目標ごとに進めさせていただきたいと思います。まず、基本目標１について御発言があればお願いいたします。

【西村地方創生アドバイザー】
発言の前に事前に皆さん質問とか投げていると思います。その回答がないと答えられないような気もしますが、どのように進めるのですか。

【伊藤座長】
事前に質問を沢山いただいていて、すべてこの場で回答していただくことは時間的に難しいものですから、改めて資料を見ていただいて、特にここは今聞いておきたいということから御質問いただければと思います。
先に委員からの質問を上げておきたいと思いますけども、まず施策の１のところで、市内総生産額が増加しているけれども、どの業種が上昇しているのかを、大分類、中分類、小分類レベルで教えてくださいと質問があるので事務局から説明をお願いします。

【まち・ひと・しごと創生推進委員 三品次長】
今の御質問、産業大分類中分類小分類でお教えくださいということです。
これは産業大分類でしか集計されていないため、細かい中分類小分類ではないので、大分類だけで答えさせていただきますと、1 番多いのが鉱業、いわゆる採石だとか砂利採取とかいうものが、69.2%で１番大きく伸びております。
それから製造業で 10%、次に専門化学技術、業務支援サービス業、これは広告業とか学術研究機関とかいうものになるのですが、こちらが 5.6%、そして、最後に保健衛生社会事業、これは介護事業だとか、児童自立支援施設等なのですが、こちらが 4.5%というような伸びとなっております。

【西村地方創生アドバイザー】
今の数字に対して、鉱業が 60%とか、介護があまり伸びないとか、それに対して単なる所感で結構ですので、地域活性化営業部として何か問題意識とかそれに対して今後の産業活性化含めて、何か気になったことがあれば教えていただきたいです。

【まち・ひと・しごと創生推進委員 三品次長】
少し驚いたのはやはり鉱業の部分です。こちらが非常に大きいですから、実際の数値を見ていませんが主に鉱業という、採掘というと、北東部の小牧市と犬山の境のところの採石が事業拡大しておりますので、そういった意味での伸びではないかと考えています。それ以外の伸びにつきましては 69%という伸びというのは非常に大きいので、10%、5.6%、4.5%の伸びのものについては、これぐらいの伸びがあって、しかるべきというよりもありがたいという感覚です。

【伊藤座長】
ありがとうございます。

他にも第 1 の拡大時の各種補助金の分析とか検証の方向を聞いているところもありますが、時間もないので割愛させていただいて、施策 1 の次世代成長産業分野に属する新規企業がどのようなサービスを開発するところが多いのか、あと当初、想定したものとの違いがあったかという質問についてお答えいただけますか。

【まち・ひと・しごと創生推進委員 三品次長】
新規企業はどのような製品を開発しているところが多いのかという質問でございます。次世代成長産業分野については、愛知県の補助制度等における、対象分野と同じく、次世代自動車関連分野、航空宇宙関連分野、環境新エネルギー関連分野、また、健康長寿関連分野、情報通信関連分野、ロボット関連分野、などを対象としているものでございます。
次世代成長産業分野に属する新規企業については、航空宇宙関連分野に属する企業が多く、そのほか、次世代自動車関連分野、次に健康長寿関連分野及びロボット関連分野に属する企業となっております。
これらのものにつきましてはおおむね予想どおりでございます。

【伊藤座長】
コロナによる影響で事業継続が不可能となる事業者も多いと思われます。特に小牧には中小の物流や飲食業が多く、支援を求める声や相談も多いと思います。
どの程度の問合せがあるのか、市としてどのように対応しているのかをお聞きしたいという質問が出ています。

【まち・ひと・しごと創生推進委員 三品次長】
新型コロナウイルス感染症の拡大に伴いまして、特に令和 2 年度の緊急事態宣言や、まん延防止等重点措置が発令された期間には、主に、給付金制度の紹介や経営相談など、1 日に数十件の問合せがありました。
その問合せについて、現在は落ちついております。
市としては、令和 2 年度から令和 3 年度にかけまして、新型コロナウイルス対策に関連する支援といたしまして、事業継続を支援するためにスピード感を持って、新たに六つの補助制度を創設いたしまして、合計 670 件の申請に対して、約 4 億円を交付しているところです。

【伊藤座長】
続けて次の、失業者に対する就労支援についての質問がありますので回答をお願いします。

【まち・ひと・しごと創生推進委員 三品次長】
失業者に対する就労支援につきまして、地域活性化営業部では、令和 2 年度にハローワークとの連携を図り、求職者に対するワンストップサービスを実施する一体的就労支援事業として、小牧市役所内に小牧市就労支援センターを設置し、職業相談、職業紹介及び求人情報の提供を行っております。

【伊藤座長】
施策 3 のセミナーについていくつか質問をいただいていて、参加者の方々の産業や業種、どういうサービスを提供しているか、起業しているか、あとデジタル系がどれぐらいあるかといった質問が出ています。これはいかがでしょうか。

【まち・ひと・しごと創生推進委員 三品次長】
具体的には、サービス業、飲食業、小売業等が比較的多い状況であります。
年齢については、6割以上が40代の方で、次いで多いのが50代となっております。
デジタルサービスの事例につきましては3件ありまして、ウェブ制作、情報通信、パソコン関係の実績があります。
起業理由は多い順に、自身の技術やアイデアを事業化したかったというような意見が1番多く、次に社会の役に立つ仕事がしたかった、事業経営に興味があったということ、最後に、自由に仕事がしたかったというものが多く出ております。

【伊藤座長】
ありがとうございます。
セミナーに関しては、商工会議所と共催ですか。これについて御意見いただければと思います。

【名和委員】
主導は東春信用金庫さんがやられておりますけれども、商工会議所といたしましても事業の活性化を念頭に置いております。この辺りを東春信用金庫さんの御意見をいただきながら進めているということで、商工会議所自体がやっているものではないです。

【松浦委員】
創業塾は、まさに今開催中ですが、毎週土曜日、5回開催をしております。
そもそも私どもは地域の金融機関でございまして、事業所とか、個人事業主の方が、どんどん減っているのを少しでもくいとめたい、新しい商売をやりたいという人の背中を押したいというところから始めておりますので、先ほど話があったように、参加される方はサービス業小売業とか、女性の方も多いですし、たまに20代30代の方もいます。
当庫が創業塾をはじめて、もう100社以上が創業しておりまして、この創業塾は、創業させるのではなくて、創業させてから、いろんな経営相談とか補助金の申請のお手伝いとか、末永く携わっていく事に重きを置いてやっておりますので、小牧商工会所と情報共有したり近隣の大口町、江南市、春日井市とも連携をとりながら進めておりますので、ここは地域のために継続的にやっていきたいということで、一定の評価を得ていると自負をしております。

【伊藤座長】
女性という言葉が出てきたので、水野委員に御意見を伺いたいと思いますが、そういう女性の起業について何かお考えがあればお願いいたします。

【水野委員】
IT 化が進んでいる中で、女性たちも今までよりは起業に対するハードルが下がっていると思います。こういうサポートがあるとより具体的に進められると思いますので、創業塾が開催されていることをもっとアピールして頂くことで更に参加者が増え、実際に起業に繋がっていくのではないかと思います。先ほど５０代６０代が多いという事でしたけれども、若い人達も起業に興味を持っていると思いますので、こども未来館とか、そういうところで情報にアクセスできるようにするとよいと思いました。

【伊藤座長】
土曜日にセミナー５回という形でされているので、一時保育がきちんと出来てないと多分連続

で出かけていくハードルが高いのではと思っていて、一方で水野委員がおっしゃったように、ICT 系などは女性でも得意な方が出てきていますので、どんどんチャレンジしてほしいなと思うところがあります。子育て世帯の女性で、起業したいという思いを持っていて、育児とか保育とかとなかなかマッチングしないので、チラシとかもいろんなところに置いていただけるといいかなと思います。
続きまして施策の 4 です。
質問として、近隣大学を中心に就職フェアの広報に力を入れて、来場者を増やしてほしいこと、就職フェアに留学生や外国人がどれぐらい参加しているのか、地元の就職を希望する日本人に加えて、留学生とか外国人のマッチングを想定した企業ラインナップが望ましいのだけれどもどうなっていますかという質問が出ています。これはいかがでしょうか。

【まち・ひと・しごと創生推進委員 三品次長】
こちらにつきましては商工会議所が中心となりまして、毎年開催している就職フェアがあります。
近隣大学のキャリアセンター等を通じましてチラシやポスターの設置依頼等を行いまして周知をしております。
今後も引き続き学生の周知はやっていこうと考えておりますが、留学生外国人別の来場者人数は集計しておりませんのでその数は持っておりません。
別施策といたしまして、今年、本市では、外国人人材雇用促進セミナーを企業向けに 12 月に実施する予定をしております。
そのようなところでも、外国人の雇用の支援を行っていきたいと考えております。

【山下市長】
小牧の産業振興政策という事で、いろいろな御意見聞きながら補助金制度を増やしてきまして、私が就任した時で 15 ぐらい、今 30 ぐらいの補助制度を持っています。
企業新展開支援プログラムという名称でやっておりますけれども、改定の時期にコロナ禍になりまして、かなり環境が変わってきたので、ウィズコロナそして今後アフターコロナを見据えた改定をして行かなければということで、これまでの改定作業を一時中断して、コロナ対応への支援についてかなり力を入れてやってきました。
そういう状況の中で今、企業の皆さん方の状況を踏まえ、御意見もいただきながら、今年度改定作業を進めてまいりまして、今の 30 から、コロナの補助金を 6 作って 36 の補助制度持っています。
さらにそれに、この状況を踏まえて改廃するところもあるでしょうがプラスしていく、新たな補助制度も含めて、産業振興という観点で、特に新成長産業の進出だとか、新事業展開だとか、あるいは DX などの生産性向上への取組とかの支援をしていくということで、今その改定作業が大詰めを迎えまして、11 月 1 日に商工会議所さんと一緒に、初めての産業振興セミナーというものを名鉄小牧ホテルで開催していただいて、企業さんにきて頂いて、説明をさせていただきました。
また、商工会議所の 1 階にこまき新産業振興センターがあり、そこで今、企業さんの販路拡大マッチング支援や新分野への進出支援、デジタル革命の対応支援などをやっており、事例紹介もやっています。広報はしていますが、なかなか企業さんにそういったことを広く共有する場がなかったので、呼びかけて集まってもらってそういった報告兼ねて、一つの共有の場が出来たので、よかったと思っています。
このような時期に、来年度、新たにスタートする小牧市の産業振興の取組について取りまとめを

しているという段階で、まさにこの基本目標 1 については、会議所と連動して進めていますので、ご報告だけさせていただきます。

【伊藤座長】
それでは基本目標２に移ります。
私も自分の専門なので、かなり細かく見させていただいたのですが、コロナでなかなか難しいところは抱えているが順調に進んでいると思っています。
その辺の実感は、坪井委員、何かご感想とか御意見とか伺えますでしょうか。

【坪井委員】
そうですね、児童館の状況でいきますと、利用者がやっと使いやすくなってきたという事で、いろいろな支援も受けてもらえるようにしていますし、その間にかなり孤立気味の方も当然出ていましたので、そういう方が少しでもリフレッシュできるような支援もしています。
ちなみに、大城児童館はこの 9 月から東部地区のテコ入れも含めて、一時預かりに着手しました。児童館での一時預かりは、今までやってなかったのですが、ちょうど指定管理の更新時期があったもので、ご提案したらやりましょうということになりまして、9 月から受け入れを始めています。ちなみに 10 月は 10 件の申し込みと受入れして、それが徐々にですが地元でも広がりつつあります。
それが一つ元気になっている所でありますが、コロナの関係というよりも児童館含めて未来館ができたことによって児童館は地域により密着し、未来館は全市的に、もしくは、ほかとも大きな交流を図っていくとなっています。
若干コロナからはみ出しますが、もう少し報告しておきますと、こまきこども未来大学は無事、夏休み含めて、各企業連携も含めて開催できて、小牧市のいろいろな課とつながりながら、うちのチームが運営も一部させて頂いております。
発明クラブというものも国や県の補助をいただいて、新たなクラブが今年度立ち上がっていまして、未来館はいろいろな学びの場、もしくは遊びながら学ぶというコンセプトのもと、未来リテラシーをはぐくむように運営していて、主だった中でいうとこども放送局というのがこの夏休みぐらいから立ち上がり始めて、子供たちが自ら発信できる、それをサポートできる講師陣を用意しています。コロナ禍で籠っていたように見えますが、実は小学生が自分で旅に行った動画を編集する、それをもっとやりたいから教えてくれとか、不登校ぎみの子がそういう場として使い始めた事例が起こっています。
当然学校の校長先生や学校とも連携しながら、お母さん方から見れば、そういう場面をみると涙ながらにほっとするというか、子供が生き生きとしていることを、喜ばれた事例も出ています。
あと、テコ入れは幾つか言われていまして、中高生も含めて、未来館はもっと活用しましょうということで、夜の研究の場というか、活動の場、夜ラボというのもスタートしております、あと、この前のハロウィンも、各企業や一般の方などいろいろな方が連携して、未来館での活動を大人側が支援しながら子供と一緒にやって行くようなことも行っています。さらにもうひとつだけ未来館でいえば、小牧工科高校に e スポーツ部がありまして、今度未来館でもそのデモをやってもらって部員の子たちがもっと長い時間やりたいとか、いろいろな調整をしながら、非常に積極的に関わってもらう仕組みが動いています。

【伊藤座長】
これちょっと、荒谷さんにも今の子供たちの発信について何か御意見いただければと思います。

【荒谷委員】
今私も初耳なのですが、こども放送局というお話がございまして、まさしく私どもの本業でありまして、その辺でも何かお手伝いできることがあれば言っていただければと思います。

【山下市長】
今、坪井委員からも詳しくお話をいただきましたが、昨年の春に、こまきこども未来館がオープンして、これはコロナ禍でのオープンだったので、延期したりしましたが、いつまでも延期するわけにはいかないので、半年ぐらいずれ込みました。オープンのタイミングはなかなか難しかったです。
春にオープンをしまして、コロナ禍だったので人数制限をしているのですけれども、かなり反響があったし利用が多かったかなと思っています。
こまきこども未来館は大きい児童館で行政だけで運営できるものではないので、市民や市民団体、企業など多くの方々に関わってもらわないと運営が出来ないものです。
理想を言えば、子供たちにも関わってもらって、そこで育った子が、下の子を教えるみたいなそういう世代を越えた循環も生まれるということも目指したいと思っていますし、そこでやっぱり大人も子供も、みんなが集まっていい関係になってくると、それで活躍できる、学べると、そういうところになる。まさにこれが「こども夢・チャレンジ№1 都市」の子供を中心に世代を越えてつながるまち、それを体現する施設ということを目指しているので、そういう意味でいいスタートを切れていると思っています。
ただもちろん未来館だけではなくて、今、それぞれの児童館の話もありましたけれども、そこをうまく連携していかなきゃいけないし、地域の子育て支援ということもしっかりと地域協議会や子供会もそうですけれども、これにも目を向けながらやってなきゃいけないということも思っています。
子供会は連合会が解散したのですが、それぞれの個々の子供会に直接市が支援するような形に改めました。子供が減っているから子供会を解散ではなくて、老人クラブもどんどん解散しているし、いろいろと今難しい時期にきています。
やっぱり世話を焼く人がいないと続いていかないという、昔から続いてきた組織だとかが、なかなか続けていけない。
スポーツ振興会なんかもそうなのですが、そういう過渡期にあると思っています。
そういった中で今までどおりではないけれども、形を変えながらも、必要なことをやっていかなきゃいけないことで、工夫しながら進めています。
市子連が持っていた機能の一部は未来館で引きとって、市が直接支援するみたいな、形を変えながら、全体として機能するようにということで今進めているところで、私も、進捗を見まして、上から 2 番目の、安心して子育てができるまちだと思う保護者の割合が、9 割近く実績値上がっているのを見て、ちょっとほっとしているというところが今の気持ちです。
課題は多いですけど、コロナの状況など様々な状況の中で難しいところがありますが、市としてはそういった方向性に向けていろいろなことを今進めて、徐々にうまくいっているのかなと思っています。
なお報告ですけど、私は 9 月 30 日に首相官邸で岸田総理に会ってきました。
子育ての関係で会ってきましたので、少し報告しておきます。
あまり関係ないかもしれませんが、最終的にはこの 1 番上の合計特殊出生率上げなきゃいけない、でも、市町だけでは難しいです。
今、人口が毎年 80 万 100 万減っていくという状況の中で、市町がいくら増やしたいと思っても、減っていくのですよね。

人口が減っていくから、先ほどの表の１のほうの人口密度も減っていくし、それらは全部連動しているので、これを上げていこうと思ったら国全体が頑張ってもらわなきゃいけないということが間違いなくある。815 市の中で 107 市の若手市長の集まりで、全国の青年市長会というのがあり、私が提案をして、今回初めて官邸に直訴しに行きました。特に経済的な問題、それから、やっぱり仕事と子育て両立というところがやっぱり非常に弱い。女性に負担がかかっているという所で、これ何とかしなきゃいけない。あとは婚活支援も一つの大きな柱だと思っています。出会いの場がうまく機能してないという問題は非常に大きいと思うので、ここも問題です。しかし、特に経済的支援については、社会で等しく負担をしていく、子育て世帯の負担率が OECD 加盟国の中で最も高いという我が国の状況は非常に問題であり、その負担を下げるべきだということで、子育てについて基本的には大学教育までは無償化すべきだという、そういう事も含めて、経済的負担については子供がいても変わらないというのが、経済的な心配をせずに子育てができるということは最低限実現したほうがいいということを申し上げてきました。
ちょっと報告です、宜しくお願いします。

【伊藤座長】
細かいところを申し上げると、今坪井委員もおっしゃったところで、中高生がどうしても子育て支援っていうときに落ちてしまうと思っていますが、小牧は駒来塾をされていて、その学習支援的なところも子供たちにとって心のよりどころになっていると思いますが、これは市内 4 か所と聞いています。
この数が増える予定みたいなものはどうなんでしょうか、教えてください。

【まち・ひと・しごと創生推進委員　川尻次長】
駒来塾につきましては、現在 4 地区ということで、中学校区が全部で 9 中学校あり、小牧地区については小牧、応時の２中学校、味岡地区は味岡、岩崎の２中学校、東部地区が、篠岡、桃陵、光ヶ丘の３中学校、北里地区が北里、小牧西の２中学校という形で、それぞれの各市民センターと中部公民館の４か所で、運営をしております。
平成 28 年度からモデル事業を始めまして、令和元年度から 4 地区になりました。
各地区で定員を設けて運営しておりまして、今までまだ、定員いっぱいになったことはありませんでしたが、今年度、途中で再募集をかけまして、ようやく定員に近いぐらいの応募になってきました。しかし、現状まだそれを超えるレベルではありませんので、今すぐ増やすということは考えておりませんが、今後そういう需要が高まってきた段階で、また改めて考えていきたいと思っています。

【伊藤座長】
なぜ気になっているかというと、そこに行かなきゃいけないとなると、募集かけたとしても、例えば、自分の居住地から遠いところと中高生ではいけないと思います。
だけど学習支援をしてほしいという子たちはいるはずで、そこのニーズを拾うこと、できればオンラインという形で、どこかにつないで、そこに大学生ボランティアを張りつけてという形など、掘り起こしていく形をとっていただいたほうがよいのではと思います。
もちろん人員の問題もあるので、サポートが難しいところあると思いますが、定員が満たないという発想は置いといていただいて、もう少し掘り起こす方向、オンラインを含めて、検討していただければなという希望です。

【西村地方創生アドバイザー】

質問です。僕が関わっているところでは厚木市とか明石市、流山市とか、小牧市もそうですが、多分共通の条件があります。
一つは、都会から少し離れている。都心の中心部から1時間程度、そして二つ目に、産業的にも仕事がある、ある程度大きい企業がある。そして三つ目に市長さんたちの積極的な市政運営みたいなのがあるような自治体って結構増えていたりとか、人気が出たりとか、好循環が回っている気がします。
その中でこの2年で子育て世帯の転入者ってどれぐらいだったのか、どう変動があり、どういう傾向があり、たまたま移動してきたのではなくて、何か理由をもって、居心地いいなという形で移ってきて、毎日、名古屋の栄まで仕事行かなくていいやとか、そういう方とかって実際いたのかどうか。
メディアででも厚木市がトップランキングになりましたとか言って、エビデンスがあるかというとよくわかんないのが実情のようです。
小牧市としてはどう把握されているのか聞きたいところです。

【伊藤座長】
いかがでしょうか、子育て世帯の転入についてですが。
年齢別人口での居住誘導区域内のデータがあって、誘導区域内だけですけど、子育て世帯、25歳から44歳ぐらいまで見ると、平成27年と令和2年では減っています。

【まち・ひと・しごと創生推進委員　三品次長】
20代から40歳代の平均転出超過数の3か年平均というのがあるのですが、こちらのほうは、総務省の人口移動報告書から数値をいただいております。
この数値につきましては、20歳から5歳刻みで、20歳から24歳、25歳から29歳というような形で数字が出ておりまして、令和3年の例でいきますと、転入転出の差が1番大きいのは25歳から29歳です。
令和2年も同様です。

【山下市長】
この数字は非常に厳しい数字だと思いますが、ただこれは、目標4が20から40代、と書いてあるのでこういう数字になっているのでしょうけども、実際のところは20代というのは、子育てとかはそれほど考えない世代かと思います。
その上の世代がどうなのかというとそこまで自信がありませんが、特に子育てについては自信を持って力を入れているということは言えますし、子育てしやすいまちだという、先ほどの数字としても実際に上がっているわけですが、ただ、それだけで判断するわけにもいかないということもあって、実際、どういう数字になっているのかは、数字があれば掴みたいと思います。小牧が弱いなと思うのはやっぱり、鉄道網が弱くこれは非常につらいです。
隣の春日井市は中央線で、名古屋駅にすぐいける。岩倉など西側は、名鉄犬山線が走っているわけですが、名鉄小牧線では名駅に行くのに2回乗換える必要があります。
ここが弱いので、選択肢に上がってこない。要するに子育てに力を入れるのか入れないのかは、その次の段階として、ベースとしての選択肢の立地条件が若干、弱いのかなという感じはします。
子育てだとか、いろいろな部分でやってきているところは一定の評価があるものの、選択肢として実際に結婚して、出産子育てといったときに選ばれるまちということになるのかということについて、どこまでそれがリンクするのかというところについては、本当によく研究しなが

ら、進めなければいけないと思っています。
いずれにしても、子育てしやすいまちということで力を入れていかなきゃいけないことは事実なので、それをいかに実感につなげてPRをしていくかみたいなところは、本当に研究していかなければいけないと思っています。

【伊藤座長】
今の流れで、３を後回しにさせていただいて、4に移りたいと思います。
4が訪れたくなるとか住みたくなる小牧の魅力の発信と創造というところで、今、転出転入の話が出ていたわけですが、今市長がおっしゃったように、私の手元に転出者に対するアンケートのデータがあります。今年6月のアンケートによれば、小牧の魅力があるところというと、回答者の中で1番高かったのは、買物環境だそうです。
転出する方たちの約18%の方が「魅力がある」と答えて、でも一方で、交通、それから名古屋市等へのアクセスのところで課題がある、魅力がないと回答している方が1割以上となっています。実際今、住み続けている方でなくて転出する方に聞いているアンケートですから、子育て世代だけじゃなく聞いていて1割なので非常に高いわけじゃないですが数値としてあります。

【内藤委員】
確かに市長がおっしゃっていた名古屋駅から小牧へアクセスとなると、1本では現状難しいところですけれども、小牧線が地下鉄に直接乗り入れているということは、名古屋市内へのアクセス性という面で一つのプラスであると思います。
先ほどの数字にもありましたが、コロナで乗降人員は減っていて、おそらくどの路線も含めて、元には戻らないのだろうと当社も考えています。ただ、名古屋市内に必ず働きに行かなくてもいい方、子育てしながら自宅で働くという方も今後増えてくると思います。そういった意味では子育て支援の施策に力を入れて、PRというか、知っていただくことで居住地として小牧を選んでいただき住民の方が増えると、より街の魅力が増えていくのかなと思います。

【山下市長】
名鉄小牧線は私どもの町が持っている唯一の路線で、平安通まで地下鉄が乗り入れていますが、名古屋駅に行くのに2回の乗り換えが必要です。
リニアのこともあり最近の名古屋駅はやっぱり発達しています。
名古屋駅へのアクセスが非常に重要ですけれど、あと２キロぐらいかな、少し延伸すると桜通線や東山線にアクセスできるので、そうなれば1回の乗換えで名古屋駅へ行けます。それについて要望をしていますが、地下鉄の延伸というのは多額のお金かかるので簡単にはいかないという事です。しかし小牧としては名古屋鉄道さんも含めて、毎年要望をしているという状況です。

【坪井委員】
住みたくなるまちで、東部には県が開発した桃花台ニュータウンがあり、公園もあって環境も素晴らしいのですが、かなり高齢化が進んでいるなど課題もあり、東部まちづくり推進室と大城児童館も連携させてもらって、今度こどもマルシェというものを開催します。
12月4日に、ワークショップに集まったメンバーで会をつくって、更に東部まちづくり推進室と大城児童館も一緒に子供たちやママたちと一緒に、二つのエリアを作ってブースを出して、マルシェをやっていきます。

マルシェに至った経緯としては、桃花台にいろいろな公園があってその会の方々が子育てしながら、町を盛り上げるために何ができるかと言ったらやっぱマルシェをいろいろやりたいとなりました。
今までのノウハウやネットワークができていましたので、それを今度はこども主体にしたマルシェをして、こどもたちは小学校1年生から中学生までで、現金で売買をすることになりました。
地域マネーなども考えましたが、あえてそういう体験をしていくことを、この会としては選んで、それをやってみます。
それを応援したいという方も増えてきています。そういう方の中ではこども食堂もやってみたい、やっぱり地域を支えたいと、いろいろな人に来ていただき、高齢者の方も応援しながらその会を支えようとしていますし、地域のうち以外のNPO、ラポールさんというところとも、いろいろな連携をしています。
もう一つ東部活性化の中でいうと、県営住宅は老朽化していて、地域は危険な状況に感じる部分も出ているので、どうするのかはものすごく関心があります。民間活用も含めて建て替えもあるのかもしれませんが、桃花台ニュータウンには県営住宅も多いので、そこが若い世代が住めるように願っている状況であります。東部まちづくり推進室の皆さんにはいつも言っているんですが、そこのハードルは高いと言われます。
もう一つは自治会も高齢化してきていて、年代が偏っているので、それをITで支援出来ないかというのを考え始めています。広島の会社に地域支援のITがあったりしますので、そういった方ともお話はしていますが、ぜひとも小牧もIT化を含めながら運営できるような地域が育っていくようなことを願って一緒に動いています。

【山下市長】
今のは基本目標3のところだと思います。中心市街地と東部まちづくりということで、二つ、市民の皆さんと昨年度末に新たな構想をつくりました。今はその実行段階ですが、今お話をいただいたように、東部にはやっぱり東部の魅力があって、自然と整備された住環境のニュータウンと、小牧は働く場がありますので、ポテンシャルは非常に高いと思います。
名古屋都心へのアクセスとかそういったところは弱いですが、それ以外ではある意味、非常にポテンシャルの高い地域だと思っていて、ニュータウンは世代が同じような方々がずっといてしまうのでオールドタウンになってくる。
そういう意味では新しい人も受け入れる、どんどんきてくださいというような、ウェルカムな雰囲気を出してかなきゃいけないみたいな話をずっとやっていますので、マルシェとか、住民主体の取組の中での交流だとか発信の機会を増やしていくというのが東部振興構想の一つの大きな考えであり、皆さんがそういう気持ちになっていただいてありがたいと思っています。
今、話に出たもので、確かに県営住宅が老朽化していて、市内幾つかの県営住宅含め、再開発みたいな声が上がっていると今聞きまして確かにそうかもしれないなと思っています。
県全体のことなので、そんな簡単ではないと思いますが、老朽化したところから建て替えをしていくのは岩崎県住なんかも実際にありましたし、今後、考えられることではあると思います。
もう一つ、桃花台ニュータウンを中心に人口が増えた時期から、小中学校を増やしました。東部地域に今小学校が5校あって中学校が3校あります。
でももう人口が減ってきている、急速に減ってきて高齢化が進んでいる中で、学校の統廃合も、今まで市では主だって議論していませんが、ただ将来を見据えるとやっぱりどこかで議論をしていかなきゃいけない段階に来ていると思います。

今１歳の子たちが中１になるころには子供の数が半数近くになる、そうするともう１クラスが成り立たなくなっていく。それは大変なことですけれども、チャンスにもなりうることかもしれませんので、土地の有効活用などいい形に進めていきたいと思っています。

【伊藤座長】
今ちょうど３と４がまたがったような状態で話をさせていただいていますが、いま東部の話が出たので私も先週、大城保育園にお邪魔をさせていただいたら、子供の４割が外国にルーツのあるお子さんということでした。東部ではまちづくりの中で、外国籍や外国にルーツのある方たちはどうなっていますか、坪井委員。

【坪井委員】
小学校も含めて割合が多くて、そういう点では非常にみんな小牧人になってきている。
いろいろな支援を、学校側が用意しており、小牧に初めて来た子たちへの支援の学級があったり、大城児童館では地域のボランティアの方々や、外国人支援の方々が日本語教育、当然母語教育と日本語と両方バランスよく持ってないと、家族とずれてしまったり、もしくは学びが進んでいかなかったりするので、日陰の部分も含めて支援もされている会が小牧にはあります。元学校の先生がそういう会を作られてやっています。その方と連携して地域の元区長さんがうちの児童館を貸してということで日本語教育を継続していますし、そういう支援にはよく出会います。外国籍のお母さんが講座をやっており、その子たちが大きく育ってきて、音楽の才能がありそうな子がずっとピアノ弾いてくれていたりします。

【伊藤座長】
大城の学区はどのような状況でしょうか。地域協議会も関係しているので、この辺をちょっとシェアしていただけますか。

【まち・ひと・しごと創生推進委員　江口次長】
大城小学校区は地域協議会でも、様々な取組をしていただいており、児童の見守りや児童と高齢者の交流事業などを通じて、外国籍の方も含め地域づくりを進めていただいている状況であります。

【伊藤座長】
私もこの間の報告会で、地域協議会の最初の会長さんがすごい熱意のある方で、小学校とかの入り口に立って挨拶運動されて、今もう子供たちのほうからあいさついただけるっていうところまで変わってきている、日本人外国人にかかわらず、協議会の方たちがすごく尽力されて交流しようというところがあって、ただそれが、小学校だと比較的保護者さんも絡めてやっておられるような記憶がありますが、中学校は少し遠くなってしまっているところがあります。

【まち・ひと・しごと創生推進委員　江口次長】
大城小学校区は、当初、若い方から高齢者まで含めた住民同士の交流というところに視点を置いて活動を進められました。そうした中、どんどん住民同士の交流を深めていく中で、今座長が言われたようなつながりや動きが広がってきていると認識しています。

【伊藤座長】
住宅の関係もあって東部は外国籍の方が多い。すごく支援をしていただいて、施策もありま

す。ただ、接する機会がある人というアンケートをとったときに、どうしても全市でとっているので、見えにくいところもある。
一方で外国にルーツのあるお子さんへのサポートについて保育所など全国的に問題になっていますが、大城保育園の保育は全然区別してないので先駆け、というふうに私は見ています。
先生たちもポルトガル語、普通に単語レベルで使うことが出来ていてぜひ皆さんに見に行っていただければと思っております。
そういう現場の交流レベルを超えて融合しているという、まさにインクルーシブなところが小牧のすてきなところです。
意識してここまで持ってきたインクルーシブの理念の実現なので、ぜひそれを PR していただければと思って申し上げました。
施策 2 のところで御意見をいただいているのは、フレイルの予防事業です。
今後も、高齢者が仲間と一緒に取り組めるもの、1 人でも取り組めるもの、楽しく取り組める様々なメニューを提案していけるとよいという御意見いただいています。

【まち・ひと・しごと創生推進委員　江口次長】
今、御意見いただいたようにフレイル予防のいろいろな取組をさせていただいておりまして、特に冒頭市長からもお話がありました、SDGs の未来都市宣言を行った後に、企業さんからも様々なご提案をいただけるよう環境になりまして、コロナ禍ではありますが、試行的ではありますが、企業さんと連携した取組ができるようになってきております。例えば、歩く速度ですとか重心のかかり方などについて数値を用いて住民の方にお知らせすることで、健康づくりへの関心や意識を高めていただける取組なども実施しています。
どうしたら、楽しみながら、継続して取組んでいただけるか試行錯誤しながら進めているところであります。

【田中委員】
基本目標 3 のところでは、フレイル予防もそうですが、地域協議会の設立という部分と活動という部分が非常にうまく機能しているなと思います。
特にフレイルについては今お話あったように、いろいろなアイテムを用意していただいて、住民の方がいろいろなものに取り組めるところがありますので、非常にその辺ではよかったと評価していますが、一点、高齢者の継続的な生活という部分を考えると、介護とかが必要になっていく段階というのがやっぱり先々にはあります。
ちょっと体が不自由になってきたけども、生活に支障が出てきている、そこを重度化させないというような、ジョイントの部分が、もう少しうまくいくといいなと思っていまして、フレイルの今の活動を、もう少し介護にもつなげていけるようなところがあるといいなというのを思っています。
それと、福祉の分野からみると、地域協議会の中で 7 組織がやっておられる福祉分野の活動のところについては、主だった活動が、草刈りだとか、ちょっと外側のほうが多いということで、家の中までなかなか入れないというところがあります。その辺については活動者の技量だとか、信頼関係、コーディネーターのあるなしというところがあるので、そのあたりをもう少し踏み込んでいけるように、福祉協議会でも来年度座談会や福祉部会の立ち上げ支援などにもぜひ関わらせていただきたいと思っています。そういった生活の中の困り事を支えていけるようなエッセンスを協議会の中でもう少し組み入れていけるような、そのようなことを次の段階として考えていけるといいなと思います。

【伊藤座長】
関連して、アンケート結果の「生きがいをもって暮らしていない」と回答した人の 65 歳以上の方の困っている問題はどういったものが多いのかという質問が出ています。いかがですか。

【まち・ひと・しごと創生推進委員　江口次長】
アンケートでいただいた結果に対して深掘りというところまでは至っていない状況でが、65 歳以上ということで、基本的にはやはり現役から第一線を退かれて、例えば趣味的な生きがいにつながるようなものが探せていないという方が一定数おられるのではないか思っています。
また、コロナ禍による外出の自粛なども要因となっているのではないかと思います。
あと、10 代から各世代別のクロス表を見ると実は 65 歳以上の方よりも 50 代の方のほうが低い数字が出ておりましたので、その辺も若干不安要素であるかなと感じております。

【西村地域創生アドバイザー】
このアンケートで、一つ申し上げたいのは、生きがいを持つことについて深掘りされるといいのかなというのが一つあります。
僕が仕事でやっているのは、クロス集計とはちょっと別で、ローデータからグループ別に分けてやるとか質問回答と質問回答のクロスとかやったりしています。
そうすると比較的、心理的にこういうことを考える人たちがこうなのか、みたいなそういった分析もできるかもしれないので、生きがいを持って暮らしているというところだけじゃなくて、何か社会的な地域社会に関連する問題とか、そういうローデータ使って分析されるといいかなと思います。

【山下市長】
今お話があった、生きがいにはいろいろな側面が影響しますので、孤独面とかも焦点を当てるべきポイントかなと思っています。
40 代 50 代の年代的な悩みとかもあると思いますが、高齢者の期間が長くなっていますし、日本だけじゃなくイギリスも孤独庁か何かつくったという話もニュースになっていましたが、本当にお 1 人様の孤独問題は大きいと思っています。行政がどこまで対応すべき問題なのかという話もありますが、ただやはり健康寿命や介護など様々なことに波及してきます。
特に男性が、仕事と奥さんに相当依存しているという研究がありますので、仕事をやめたあとのつながりとか、生きがいみたいなものを持ってない人も結構いると思います。様々な研究結果を見ても、一定数そういった方々がいるということです。そういう意味では孤独ということを切り口にしたアプローチというのも必要ではないかと私も思います。ただそれがどこまでどう行政でできるのか、やらなきゃいけないのか等もありますが、重要な観点かなと思います。

【名和委員】
お伺いしておりまして、様々なサービスを行政が行うというのもやっぱり限界があると思います。
私はライフラインを扱っている企業を経営させていただいておりますが、やはり 1 日何十件何百件っていうお宅を訪問するわけです。そこで様々な家庭に触れ合います。
そこで、行政と企業がタイアップして、ライフラインをはじめとして、住まいの提案ですとか、生きがいの提案ですとか、様々なことをやれると思います。ただそこで、ただ単にボランティアでやれるのかといったら企業は多分、それは出来ないと思います。
やはり、賃金ですとか報酬が発生しないと企業は長続きしませんので、ある程度長続きさせる

ためにビジネスとしてとらえて、企業と行政がタイアップをして、能動的に、そういった方々に触れ合っていく。例えば、男のための料理教室ですとか、男の生き方教室ですとか。
ぜひそういうようなことを行政とタイアップすることによって、また新しいビジネスチャンスも生まれるし、そういった新しい人との触れ合いの機会もふえてくると思いますので、そういったことをおっしゃっていただければ、商工会議所としても、1経営者としても、一つ、チャンスがあるのかなと思ったので発言させて頂きました。

【山下市長】
介護予防も含めて非常に大事だと思います。

【名和委員】
男の料理教室では、ただ単に毎日の食事のことをやるのではなく、酒のさかなの楽しみ方だとか、そのものを楽しんでいく、楽しみとして、生きがいとしていくものを見つけていく、そんな提案が出来たらいいなと思います。

【伊藤座長】
女性からするとそういう男性が増えることは歓迎です。料理ができる、要するに、家庭内でこれまでやっていって、女性が多く担ってきたそういう家事、そういうところに気を持っていく男性が増えてくると大賛成です。それを未婚の40代50代にアプローチしていくところも必要かと思っています。先ほどの田中委員のお話のとこに戻していくと、そういう世代、私も今50代で、ちょうど親がフレイルから介護のジョイントの時期です。
ということは、やはりそこに聞き取りしないと難しいかなと思っていて、当人は問題ないと思っていることが多いです。
明らかに何か散らかっているなどの変化を子供の世代が感じれば、そこへアプローチをかけて、親世代がどうなっているかということを聞きとっていくことが必要かなと思っています。
そこへの働きかけを、忙しい世代ではありますが、やっぱり家族なので、離れて住んでいる人や近居同居の方もいる。そこへアプローチをしないと、そのジョイントのニーズが拾えないという感想です。

【田中委員】
まさにそこのところをどう聞き取りしていくかというところで、やっぱり生活の中の困り事というのがすごく複雑になってきています。そこのところをやっぱり一つ一つ紐解いていかなければいけないという部分があると思います。
それを今度、例えば地域協議会の福祉部門のところで繋ぎ合わせていくと、もう少し生活に踏み込んだところでのお互いの支え合いができると思います。
もちろんそれは、住民の方でできることと専門職でやらなければいけないことがありますので、その辺のすみ分けが必要だと思いますが、オール小牧っていう形で取り組まなきゃいけない所であるという感じがしました。

【山下市長】
地域協議会の話がさきほどから出ていますけども、コロナ禍でいろいろなところで地域が傷ついている部分があります。顔の見える活動がかなり制限されていましたので、自治会活動だとか、組織での支え合い助け合いみたいな活動を今まで目指してやってきていますが、活動量とか会って活動していくのが少なくなればなるほどやる気が下がってしまい活動自体が停滞する

と、そこで求心力もやる気も下がるというその負のスパイラルになってしまいます。出来たばかりの協議会で活動を始める前にコロナになってしまいほとんど動いてないとか、最初やる気になって集まった人たちが、やる気が削がれて、どこから再開するかみたいなところもあります。非常にいろいろと困難で、区の状況も夏祭りなどもやらないまま２年３年きてしまい、来年はぜひ、これは地域のつながりの基盤ですから、やっていかなければいけないと思っています。
自治会もきちんとした引継ぎだとか区長も変わってしまうとかそういった継承も出来てない。ないならないで過ごしてきているから、面倒だからやらなくていいのではないかとか本音ではやりたくないとか、そういうところの人たちもやっぱ一部いると思います。
今のマイナスからのスタートをどう再開していくのか、非常に難しい時期に来ています。
これを何とか回復そして正常化して、そしてさらにそれを前に進めていかなければいけないという、重要な時期だと思っていますので、様々な困難があると思います。
それらは行政が全部出来ないので、地域の皆さんに働きかけしながら何とか気分を上げてもらって、「やるぞ」という気持ちになってもらうにはどうしたらいいかみたいなところが、いま一つ大きな悩みというか、そういう時期なのかなと思っています。

【伊藤座長】
ありがとうございます。
小牧が地元、地域愛という所で、お互い支えあいというところから動いている地域協議会も一つそれの軸になっていますが、一方で外にアピールをしていかなければならないと思っています。
岐阜で織田信長がすごいことになっているそうですが、発信について荒谷さんに意見を伺いたいのですが、いかがでしょうか。

【荒谷委員】
小牧山の PR の話が触れられていますけれども、1 年前にこの懇談会に出席させていただいたときに、小牧市だけではなく市外にも情報発信をして、少しでも多くの皆さんに足を運んでいただくことが必要じゃないかというふうに思いました。
今回、皆さん御存じのとおり来年の 1 月 NHK の大河ドラマで家康の大河ドラマが始まります。私どもも小牧と家康とのつながりといいましょうか、ゆかりの話を CC ネットとして取上げて、10 月に発信しました。番組の名前が「身近な家康」という名前でして、地元の方も知らない徳川家康の小牧の中でのゆかりの地、お寺ですとか、そういったところも紹介して発信をしております。
今回、この発信のエリアは私ども CC ネットですと 20 市町ございます。この 20 市町全体に放送の配信しており、10 月に小牧の発信をしました。
12 月は、春日井市での徳川家康のゆかりのお話、例えば勝川という名前はどうしてついたかですとか、そういったような話を紹介していくということで、小牧市、春日井市、日進市、こういったところを順番に御紹介して、最終的には来年の 1 月に総集編といいますか、それを一つに特集でまとめまして、発信をしたいと思っております。
こういう特番は結構視聴率が良く、恐らくかなり多くの方がご覧になられていると思います。ですので、こういったような取組を継続して CC ネットとしても続けていきたいなと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

【山下市長】

ありがとうございます。
是非そういったのを市内外にPRをしたいということで、ぜひ御協力いただきたいと思います。小牧もまさに小牧山がシンボルですから、信長の小牧山城ってことでここ10年ぐらいずっと言ってきました。
全然知られていなかったので、力を入れてきたこともあり、かなり浸透しました。
今度小牧・長久手の戦いで、「どうする家康」、来年のNHKの放送に絡めて力を入れていこうということで今、徳川家の旗がね、小牧山見ていただくと雰囲気づくりと賑やかしで立っていますけれど、山頂の歴史館と、それから、麓のれきしるこまきの中の展示改装をやっていまして、1月に間に合わないのですが、来年春までに展示改装をやっています。
これまで小牧市歴史館ということで、小牧の縄文時代以降からの土器だとかいろいろなことを含めての展示がありましたが、小牧山に来ていただく方は小牧全体の通史よりも、やはり城とか戦国時代とか、織田信長とか徳川家康に関心があるので、小牧・長久手の戦いに特化をして、充実させていくってことを今やっています。
それもPRをしながら、新たに呼び込んで、名鉄さんにもぜひ協力いただきたいと思っていますので、ぜひよろしくお願いいたします。

【伊藤座長】
ありがとうございます。
それでは時間も迫っておりますので、続きまして、議題の2ですね、令和3年度新型コロナウイルス感染症対策地方創生臨時交付金の効果検証について事務局よりご説明をお願いいたします。

（２）令和3年度新型コロナウイルス感染症対策地方創生臨時交付金の効果検証について
・事務局より、資料３に基づき、説明。
〇質疑・意見の発言内容
【伊藤座長】
ご説明ありがとうございました、それではご意見ご質問あればご発言をお願いいたします。
皆さまいかがでしょうか。

【西村地方創生アドバイザー】
交付金は国民の税金を使っています。したがって負担金補助金を出してその後どうなったのか、やはりその後のフォローというか、3年後5年後ぐらい見といた方がいいのではないかなとは思います。
特に3番目の航空業者への支援についてありがたいのかわからないですが、やっぱりそれをいただいているっていう意識を持つ必要があります。
全て確認する必要はないと思いますが、適宜何か気になったものに関してはちょっとフォローアップがあるといいという気がします。それが評価だと思います。

【伊藤座長】
これについて御意見があればお願いします。

【まち・ひと・しごと創生推進委員　三品次長】
今委員がおっしゃったとおり、フォローアップというのが非常に重要だと思っております。
企業につきましては、毎年多くの企業さんをお伺いいたしまして、御意見のほうを頂戴してお

ります。
現状の確認やほかにお困り事がないかどうか、市で何か援助できるものがあるかどうかというのを、フォローアップという格好でお邪魔させていただいております。

【伊藤座長】
ありがとうございます。
実施計画時の2400万という額が、総事業としては535万になっていて、このギャップの説明をお願いします。

【まち・ひと・しごと創生推進委員　三品次長】
まず2400万について、この補助金をつくった段階では、限度額上限をお支払いできるように予算取りをさせていただきました。
それが今ここに載っている大企業6社に、中小企業12社、合計18社で、2400万という限度額になります。
実際の事業費としては、この交付を受けなかったところもございまして、交付した企業は大企業3社に中小企業8社で11社になりまして、限度額の上限まで交付したところが、ごく少数となり、事業費としては予算額より少なくなったというところが現状でございます。

【伊藤座長】
ありがとうございます。
このコロナ対策のところで皆さんご意見いかがですか。
名和委員どうですか。

【名和委員】
感覚的には私どもは大体事業の運転資金ですとかそういったこととは関係してきますけれども、こと私どもの事業で行けば、一つ一つのコロナ対策に関して余り申請はしておりません。
何かうちの事業に該当するもらえるものはないかなと常日頃見ていますが、なかなか機会がないというのが正直なところです。

【坪井委員】
この1番のGIGAスクールの部分で私ども関わる部分が多少ありますので、お伝えしますと、先日も児童館の協議会が別でありまして、そこで学校の先生に来ていただきました。校長先生からの話では子供達や先生方がタブレット等の使い方でうまくコミュニケーションが取れるようになってきていて、夏休みの出校日は、実はもうタブレットでリモート出校日いうのを設けて、暑い中出校することのないように工夫したとか、ちょっと先進的に行ったというお話を聞いたり、未来館でもタブレットを小学生が使いこなせるようになってきていたりしていて、逆に使い方のどこまでを制限するのかも含めていろいろ議論が起きます。
見方によっては、とにかくYouTubeは見せたくないっていう人と、どんどんやらせて小さな失敗も含めて成長していくようにしていきたいという両方の話が未来館でも出ております。
幼児ですらタブレットで遊んでいますし、YouTubeという言葉も知っていますのでそんな時代をどのように今後未来リテラシーに変えるのかとしてやっています。

【伊藤座長】
関連して私からセキュリティーに関して、子供たちが使用できるタブレットでも破れちゃうと

思うのですが、学校ではどう管理されているか教えてください。

【まち・ひと・しごと創生推進委員　伊藤次長】
学校でのセキュリティーにつきましては、先生に対して情報セキュリティーの研修を行い、子供に対しても、随時行っているような状況であります。

【伊藤座長】
私もテクニカルなことわかりませんが、他方で心配されるのがどうしてもタブレットやPCを使い続けていると目の健康が害されるというところです。
特に低年齢のお子さんに気になる斜視なども気になりますので、その辺も、多分学校で指導はされているとは思いますがいかがですか。

【まち・ひと・しごと創生推進委員　伊藤次長】
現状のタブレットの持ち帰りにつきましては差がありますが、月に1回以上は持ち帰りを行うというような形でやっているところです。今はパイオニア校ということで、市内小学校2校、中学校2校で、主にタブレットを使って授業を進め市内に広げていくような形で進めています。

【伊藤座長】
ありがとうございます。
もうひとつお伺いしますが不登校の子たちのオンライン出席について認めてらっしゃるかどうか教えてください。

【まち・ひと・しごと創生推進委員　伊藤次長】
不登校の子のオンライン出席は、特にはやってないかと思います。

【山下市長】
様々な御意見ありがとうございます。
このコロナウイルス対策の創生臨時交付金の検証ということで、この対策の生活支援だとか事業者支援、事業継続支援、経済対策、こういったことについて国県市と、様々な事業をやっていまして、これは市の行った事業ということですけど、県が直接やっているものとか、特に国では一人当たり10万円給付なんていう1番大きなものがありました。
そのとき最終的な事務は、市町村で行いましたが、ここに出てないですがこれ以外にも様々なことがあったということです。
そういう中でこれがあったから助かったとかいう事については、飲食店の補助金でも様々な議論がありますし問題点もあるのはそのとおりだと思いますけれども、ただ私が知る限り、例えば国の1人当たり10万円給付も、政策自体の本当に一律で10万円がいいか悪いかは当然議論のあるとこだと思いますが、ただ当時、とにかく少しでも早く現金が手元に欲しいということは間違いなくて、そういった方々をいち早く届けていくということについては私ども全力挙げたということです。
いずれしても、初めてのところで、我々自治体も非常にこのコロナの中ではもう臨機応変に様々な対応が求められた中で、市としても全力を挙げてきた、その中で必要なことをやってきたと思っている所であります。

【伊藤座長】
ありがとうございます。
最後に、全体を通してご意見があればお願いします。

【水野委員】
こども未来館に一度伺いました。幅広い年齢層の子がいて、子供がわくわくする非常に興味深いところでした。周りの地域からも非常に関心を持たれていると思います。実際に、近隣地域に住む子育て世代の友人から、行った、行きたいという話をよく聞きます。
先ほど、20 代の人たちについての話が出ましたが、その世帯は結婚をする前後ぐらいだと思います。その段階というよりも、特にターゲットとして呼び込むべきは、子供が生まれて小学校に入るまでの世代だと思いますので、その窓口が多分こまきこども未来館なのかなと考えています。
私は初めて行きましたが、「ここに住むとこんないいことがあるよ」といったアピールなどのパンフレットがどこに置いてあるのかすぐにはわかりませんでした。こども未来館はアピールの場だと思います。外に向けてもっとアピールすべきじゃないかと思いましたので、ターゲットを絞った戦略を、今後ぜひ打っていただきたい。

【山下市長】
まさに今お話あったように、外から来られる方も見えるので、そこに小牧の子育て環境を来館者に PR していくということを一つの大きな目的にしています。
もし今のようにお感じになったところであると、まずは現状も全力を挙げてくれている現場ですけども、やはりそこの部分が少しちょっと弱くなっている部分があるのかなと思うので、実はそのためにデジタルサイネージもつけているので、来た方がふと、子供たちが遊んでいて待っているお母さんとかに小牧の子育て環境の充実度やこんなことやっているということなどそういった施策も流したい、PR したいっていうことがあるので、今一度ちょっとその趣旨でチェックをしたいと思います。

【伊藤座長】
こまきこども未来館の市内在住者と市外在住者の利用割合を教えてくださいという質問がありましたが、データを教えていただけますか。

【まち・ひと・しごと創生推進委員　川尻次長】
市内と市外の利用状況ですけど、平日と土日祝日の休日は無料と有料という分け方をしています。土日はどうしても混みますので、土日祝日を有料にし、市外の方を有料にして、平日にできるだけ来ていただくようなそういう形をとっております。
その中で、全体としての割合としましては、市内の方が約 67％で、市外の方が約 33％です。
平日、休日というくくりでいきますと、平日の市内の方が 57％で、市外の方が 43％で、休日については、市内の方が 74％、市外の方が 26％ということで、できるだけ日曜祝日とかに、市内、市内の方が利用しやすいようなことをやっております。

【内藤委員】
私はまちづくりの担当ということで、今未来館や図書館の話もありましたが、図書館は数字を見ますと非常に好調で目標値も超えており、駅前の中心市街地に賑わいをつくっていただいて非常にありがたいなと思っております。

今後は先ほど駅の乗降者数の話や、アクセスの問題もありましたけれど、我々はやはり小牧駅を中心とした街の中心市街地を活性化していきたいとの想いは持っております。今後小牧市としても駅前広場の整備等も進めていくということで、直近でもサウンディング等いろいろな動きをしていただいております。我々も鉄道事業者として駅前の活性化を行政と一緒に協力してやっていきたいと思っておりますので、引き続きお願いします。

【伊藤座長】
それではこれを持ちまして本日の議事は全て終了となります。
円滑な議事進行にご協力いただきありがとうございました。